



日野川大花火 2020.10.31

行政でもイベントのプロでもない
地域の力が大輪を咲かせました。
主催：One fukui 実行委員会



この大花火の成功に向け、福井県コロナ対策チーム、スポーツ課、福井南警察署、福井市消防局、国土交通省福井河川国道事務所、県・市道路管理者、日野川工事連絡会、京福バス、福井ケーブルテレビ、福井県キッチンカー協会、4地区(社南、社西、社北、清水北)の自治会連合会、公民館、運営審議会、防犯隊・交通安全協会、各活動団体、地元生産組合の方々と協議を重ねました。本当にありがとうございました。

あけましておめでとうございます

大変なコロナ禍の中で何が出来るか。昨年の議会では医療・検査体制の充実、支援メニューの一覧化、コールセンターのあり方、新しい働き方への挑戦、結婚への機運醸成など様々な角度から指摘、提言を行ってまいりました。福井県はコロナ対策予算として、通常年間予算の約2割にあたる約920億円を超える補正予算を編成しました。現在では、地域の279の医療機関で1日4185件の抗原検査、948件のPCR検査を受けられる体制となっています。しかし、多くの方々が楽しめるイベントや旅行などができない状況の中、不安やストレスを抱える生活を余儀なくされています。そんな今だからこそ、皆様の心の希望になる企画を実施したいと、日野川大花火の実行委員会を立ち上げました。(私は副実行委員長を務めました)コロナは私たちにいろんな挑戦と変革を教えてくれたと実感します。花火は素晴らしい夜空のショーでした。約2ヶ月という、余裕のなかった準備期間でしたが、花火を応援してくれる様々な人の熱い想いを感じ、かつて経験したことのない大きな輪で協力・連携が出来た実績に対し、新しい未来が見えたように感じています。今年もウィズコロナは続いていきますが、新しい未来のある、もっとイイ！福井を目指して頑張っていきます。



実行委員会は6回開催



4地区から防犯隊も協力



2020.10.20日刊県民福井



3DAYスタッフ(チラシ配布、当日、後片付)説明会

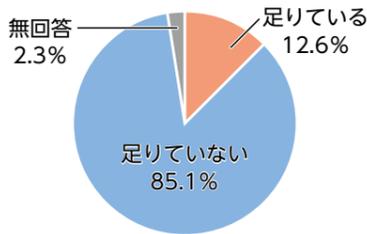
1 実態調査で明らかに 公立・公的病院の逼迫

自治労福井県本部の衛生医療評議会が、公立の感染症指定病院に勤務する医療従事者に実施した（8月6日～26日）調査結果を発表しました。調査は、県立病院、三国病院、敦賀病院の看護師、健康福祉センターの保健師など医療専門職を対象に実施し、回収率は76.4%、1,146人から回答を得ています。この実態調査は比較的感染者が落ち着いていた時期に行ったにもかかわらず、感染症病棟だけでなく、病院全体が逼迫していることを痛感させられました。

Q. 人員が足りているか。

〈代表的職種（看護師）〉

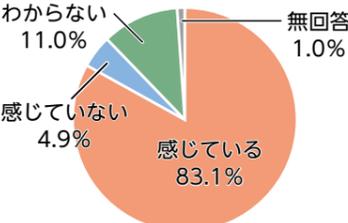
人員	人数(人)	割合(%)
足りている	88	12.6
足りていない	595	85.1
無回答	16	2.3
全体	699	100.0



Q. 精神的負担を感じているか。

〈代表的職種（看護師）〉

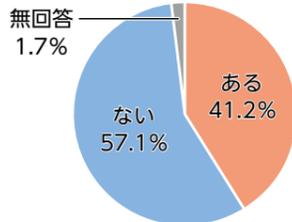
精神的負担	人数(人)	割合(%)
感じている	581	83.1
感じていない	34	4.9
わからない	77	11.0
無回答	7	1.0
全体	699	100.0



Q. 仕事を辞めたいと感じたことはあるか。

〈代表的職種（看護師）〉

選択肢	人数(人)	割合(%)
ある	288	41.2
ない	399	57.1
無回答	12	1.7
全体	699	100.0



問1 自治労福井県本部による公立病院等における実態調査の結果に対する所見と職場環境改善に対する知事の想いを伺う。

知事 身体的、精神的な負担が大きくなっていることは、今回の示している調査結果のとおりだと重く受け止めている。

コロナ患者を受け入れている病院は、県内では全て公立または公的な病院であるため、その医療体制を守っていくことは非常に重要だと十分認識している。これからも医療従事者のみなさんが仕事をしやすい環境を少しでも確立できるよう、我々は努力をしたいと考えている。

問2 県立病院経営改革プランの医療従事者の人員体制について、感染症対応に必要な人員増強も想定すべきだが、どのような方針でプラン作成にあたるのか。

部長 プランでは育児休業等取得者の代替職員の適切な確保に努め、指摘の感染症対策など医療サービスの提供に必要な人員の配置も、経営収支バランスも配慮しながら盛り込んでいきたい。



2 コロナ禍での結婚式への機運醸成を

9月定例会（一般質問）



問3 コロナ禍の中、カップルやその周囲に対して、どのように結婚の機運醸成を図っていくのか。

知事 結婚式に限らず、大人数の飲食のイベントは、大きな影響を受けていると感じる。県としても工夫していかなければならないし、PRをどうしていくか今考えている。今回、「ハッピーマリッジ応援事業」の予算を創出した。（結婚式で使えるカタログギフト 1組5万円分等）

問4 コロナ禍による婚姻数減少について、県内の状況および今後どう対応していくのか。

部長 婚姻数は、令和2年3月～6月が速報値ベースで約900件。令和元年の同時期と比べると約3割の減である。年内にはスマートフォンを使ってマッチングできるシステムを導入する予定。対面が難しい状況の中で婚活を応援したい。

3 マイナンバーカード 福井県の普及率は全国43位 15.3% (R2.8.16時点)

問5 マイナンバーカードは、県民に安心感と利便性への理解を広めることが普及の第一歩と考えるが、今後のマイナンバーカードのPR促進策や市町との連携による活用策をどう検討しているのか。

部長 国では来年3月から健康保険証での利用が開始され、運転免許証との一体化、災害時などの迅速な現金給付が可能になるよう検討が進められている。

カードの多目的利用として10市町において住民票等のコンビニ交付を実施。4市において図書カードに利用でき、県立図書館でも2020年7月から利用を開始している。引き続き更なる活用策を進めていきたい。

対面（おもて面）でもオンライン（うらな）でも使える公的な身分証明書です。マイナンバーの他に、氏名・住所・生年月日・性別が記載されています。

おもて ICチップ付き！対面での身分証明書に！

うらな ICチップ付き！オンラインでの身分証明書に！

なりすましはできません。顔写真入りのため、対面での利用は必須です。

プライバシー性の高い個人情報が入っていません。ICチップ部分には、教や年連などの個人情報も記録されません。

電子証明書を使うため、オンラインでの利用にはマイナンバーは見られません。

マイナンバーを見られても悪用は困難です。マイナンバーを利用するには、顔写真付き身分証明書などの本人確認が必須のため、悪用は困難です。

4

県都（福井駅前）「ほこみち」でのまちづくりを！

（歩行者利便増進通路）

問6 駅前の中央大通り（幅44m 延長400m）を、道路法改正で占用が容易に認められるようになったほこみち（歩行者利便性増進道路）制度などで、道路を再配分して移動販売カーなどで楽しく美味しい空間にする可能性はあるか？

部長 新幹線開業に向け中央大通りは道路空間を再配分する事が適当。福井市と協議しながら県都にふさわしい空間にしたい。

問7 再開発で取り壊し工事が始まったが街の将来の姿が見えてこない。議論は始まっているがどんな議論をしているのか？道路、路面電車、バスを含めた一体的なエリアマネジメントはどうなっているか？

知事 商工会議所の各専門委員の専門家、民間の方、プレイヤーになる方が中心になって議論を進めている。エリアマネジメント部会では、議論の中心として歩きたくなるまちづくりをするべきという話し合いがされたようだ。歴史や文化を生かしたまちづくりや、足羽山や足羽川をシンボルにしたまちづくりなどいろいろ議論し、最終的に協議会として令和4年の夏頃に最終的なとりまとめをしていきたい。



12月定例会（代表質問・一般質問）



長野県移住ポータルサイト

問8 コロナ禍で分散型国家が叫ばれる中、福井への移住はまさしく今が絶好のチャンス。移住人気上位県には引き込まれるキャッチフレーズと移住促進のサイトがある。長野県は「楽園信州」や「信州リゾートテレワーク」ネットを覗くと市町との連携もしっかりできている。全国の移住希望者に映える福井県の魅力的なフレーズの設定、移住促進サイトの改修、さらに、京都を含めた全国5か所にある対面や電話相談窓口である昔ながらの「福井Uターンセンター」の名称も再考すべきでないか。

知事 Uターンセンターという言葉が悪いとは思わないが、Uターン推進したい気持ちが先に出ている。こちら側の来てほしいという気持ちが強く出過ぎているように思う。相手方目線でもより近づきやすく、それでいろんな情報がもらえる。そんなセンターにできるような体制の強化を含めて、名前だけでなく体制の強化を含め来年度に向けてしっかり検討したい。

5

人気ランキングNo.1は長野県
移住戦略を！

代表質問（原発関連）

民主・みらい派

問1 廃炉解体による低レベル廃棄物について

福井県の原子力発電所の7基について廃止措置が決まっている。その解体における低レベル放射性廃棄物の処分について、国や電力事業者に対して、処分施設や処分場所の方向性を明確に示すよう求めていく段階にきていると考えるが知事の所見を伺う。

知事 福井県は、基本的に発電は引き受けたが、使用済燃料や放射性廃棄物の処分については県外で行っていくことを継続して訴えている。

低レベル放射性廃棄物の処分は、全国すべての原子力発電所の共通した課題であり、原子力事業者は協同でよく話し合いをして、理解の促進に努めていく、その上で処分場の確保を行っていくことが必要である。

国は、これを事業者任せにしないで、しっかりと廃止措置が着実に進むように責任を持って進めてもらう必要がある。県としては、電力事業者に対しては事業者協同して取り組むこと、国に対しては責任を持って進めていくべきことを、引き続き強く訴えていきたい。

問2 中間貯蔵施設について

約束である中間貯蔵施設の県外候補地の年内提示は、関西電力の信頼回復の絶対条件の一つと考えるが、知事の所見を伺う。（2018年中の具体的な計画地点の提示が反故にされた。）

知事 関西電力は、2年間中間貯蔵施設の計画地点提示の時期が遅れているという状況であり、地元、県民の間では信頼関係が崩れている状況となっている。

私は中間貯蔵施設の計画地点の提示は、新しい課題の議論を行う前提であると考えている。前提であるということは、すべての条件に先んじるものというふうを考えている。



国内外のニュース

- 1月16日 国内初の新型コロナウイルス感染患者を確認
- 1月28日 日本政府が新型ウイルスを「指定感染症」に閣議決定
- 2月3日 ダイヤモンド・プリンセス号が横浜港に到着
- 2月28日 文科省が小中学校や高校などを3月2日から春休みまで一斉休校
- 3月5日 大阪の複数のライブハウスでクラスター発生
- 3月11日 WHOが「パンデミック」宣言
- 3月24日 東京五輪・パラリンピックの1年程度の延期で合意
- 4月1日 安倍首相が布マスク2枚を全戸に配布する方針発表
- 4月7日 7都府県に緊急事態宣言
- 4月17日 政府が1人あたり10万円の一律給付を発表
- 5月4日 緊急事態宣言を5月31日まで延長。「新しい生活様式」発表
- 5月25日 緊急事態宣言を全面解除。プロ野球の6月19日開幕決定
- 6月1日 首都圏など各地の学校で約3か月ぶりに授業再開
- 6月12日 コロナに関する2次補正予算が成立約32兆円で過去最大
- 6月19日 政府が都道府県境をまたぐ人の移動自粛要請を解除
- 7月4日 九州豪雨 死者77人
- 7月22日 「Go Toトラベル」開始
- 8月10日 中止された甲子園高校野球で交流試合開催
- 8月17日 4～6月期のGDP年率換算で27・8%減 戦後最大の下落幅
- 8月28日 安倍首相が持病の潰瘍性大腸炎の悪化を理由に辞任
- 9月15日 立憲民主、国民民主両党などの合流新党「立憲民主党」発足
- 9月16日 菅新内閣が発足
- 10月8日 北海道寿都町長が核ごみ調査応募表明、翌日神恵内村も受け入れへ
- 10月26日 アニメ映画「鬼滅の刃」、国内最速で興行収入100億円突破
- 10月29日 コロナ感染者が累計10万人超え。死者は累計1761人
- 11月1日 大阪都構想、住民投票で反対多数
- 11月5日 香川県の養鶏場で、高病原性鳥インフルエンザが発生
- 11月21日 「Go Toトラベル」札幌、大阪両市の一時除外
- 12月12日 全国で新たに3041人がコロナ感染初の3千人台
- 12月14日 「Go Toトラベル」年末年始全国一律の停止発表

1月
2月
3月
4月
5月
6月
7月
8月
9月
10月
11月
12月



1/5
県政報告 地域の方に県の今年の大きな事業や課題などを報告しました。



1/30
水仙園(越前市 介護老人施設) 利用者への先進的取組や、施設で働く人の働き方や処遇面により離職率も低い理由をお聞きました。



3/18
児童クラブ 学校休校に伴う受入実態や課題をお聞きました。(その後子ども達と...)



3/17
細呂木駅前ふれあいセンター 地域の活性化として住民自らが駅前の農協会館を改築しふれあいセンターを運営しています。



3/26
木材市場 嶺北木材組合の木材市場を視察



4/24
雇用調整助成金 春山合同庁舎には相談に来る人が溢れていました。当初は書類申請が複雑で問い合わせが多かったようです。



5/2
ピザ窯作り 金津の森のテラスでピザ窯を作りはじめました。



5/7
医療用ガウン 事業者の方と医療従事者が感染しないガウンの設計を県立病院と協議しました。



5/20
交通事業者との意見交換 コロナの影響を受けた公共交通事業者の方々が必要な支援策など意見交換しました。



5/23
農業 農業体験に向け、さつま芋の苗を植えました。



6/18
県立病院ICU 県立病院のコロナ病床やICUを視察。



7/24
若狭の恵 農家組合を合併し時代を見据えた先進的な農業経営体を設立した「若狭の恵」を視察しました。



10/2
2回目の農業体験と森のテラスイベント



7/29
敦賀病院 会派で嶺南地域の医療の現状やコロナ対応の課題について意見交換しました。



11/10
永平寺自動運転 会派で自動運転車に試乗し、活用策などを話し合いました。



要望活動
地域の課題については地区や自治会の皆様と幾度となく福井市役所へ要望へ行きました。

